私見創見 Thursday

「やる気」を生む「気付き」

ゆとり教育世代の志望校

畑山　篤
志学塾塾長

はたやま・あつし　1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

1989年、6坪の貸店舗から塾を始めた。

当時、国語の『黒い鉄のかたまりがシュシュと音を立てながら進んで行く』。さて、黒いかたまりとは何か」という問いに、塾生が誰も答えられず驚いたことがあった。先日は小学生が、「昔の人が使っていた道具を調べよう」という課題に「電話ボックス」を取り上げていた。

子どもが蒸気機関車を、電話ボックスを〝歴史〟で学ぶ時代だ。親の世代が思う「詰め込み教育」や「受験戦争」も今はかなり様変わりした。

八戸地域では基本的に、小中学校は学区内に通う。そして、高校は自ら選ぶ。夢に近づくため選抜試験を乗り越えて行く。しかし、「ゆとり教育世代」は時期が来ても志望校を決められず、締め切りが来ても志望校を諦められない子が少なくない。

昨年秋、1日無料体験にやってきた中3男子がいた。私は面談の席で志望校は?、将来は?と尋ねた。彼は「A高校です。将来は医者に」と背筋を伸ばして答えた。

しかし、学校の成績は150人中100番前後。志望校には偏差値で25も足りない。私は「よし！　合格にはかなりの努力が必要だ。勉強の仕方を教える。頑張れるか?」と励ました。彼は母親と目を合わせてから「厳しくても頑張ります」と笑顔で答えた。

教室へ案内しようとしたら、「あ、腹減ったんで帰ります」。「え?　あと30分頑張るだけだよ」、「あ、何も食べてないんで」。すると母親が「この子は本当に何も食べていないので」と助け船を…。

私は「A高でしょ、医者だよね」と念を押した。彼は少し考えた後、「う～ん、やります」。母親は心配そうに帰って行った。そして、彼は渋った割には素直に楽しそうに最後までやり遂げた。

だが、12月になっても、やはり努力はしない。「今日からやります」と口にするが、やらない。年末年始に親を交え、何度も面談を重ねた。それは志望校を下げさせる説得でなく、やる気を引き出す言葉掛けの時間だった。

ついに最終期限の日が来た。私は「今の努力より、もう少し頑張れば合格に届くのはB高だと思う」と告げた。彼は「〝自分なり〟に頑張りました。医者になるのが夢です。やればできます」と答えた。

「やってもいないのに夢を語る時ではない。締め切りだ」。すると母親が「担任が納得できるまで考えていいよ、ぎりぎりまで変更してあげるから、と言ってくれたんです」。中学校の先生が苦肉の対応をしているのが分かった。

「備えあれば憂いなし、憂いがないから備えない」と話し、「憂い」を国語辞典で調べさせた。しばらくして彼は「畏れ敬う」という言葉に出会った。

「敬うとは知ること。知らない人を尊敬することはできない。君は医者を知り、医者になるための努力を知らねばならない。世の中では〝自分なり〟ではなく〝他人なり〟に頑張ることが大切だ」。彼は「B高を目指します。そして大学入試でリベンジします」と言った。

確かに親は子に「夢は諦めない」と教えるべきだ。しかし、同時に「夢とは、かなわないものだ」ということも伝えたい。乗り越えられない目標を掲げるだけでなく、乗り越えようと努力することで、「希望」が「志望」となり、〝自分なり〟だった頑張りが〝他人なり〟を思う力を育む。

親が子に教えておくべき「備え」とは経験であり、正念場を想像するという人生の「予習」かもしれない。親の「気づき」があれば、必ずや子は「やる気」を見せてくれるはずだ。

災害時の自治体連携

東日本大震災では、全国の9割超の市区町村が職員や物資などを送り、被災自治体の力となった。被災現場に派遣された職員が持ち帰ったノウハウは、地元の防災政策に生かされており、自治体間連携はいまや災害対策の大きな柱だ。

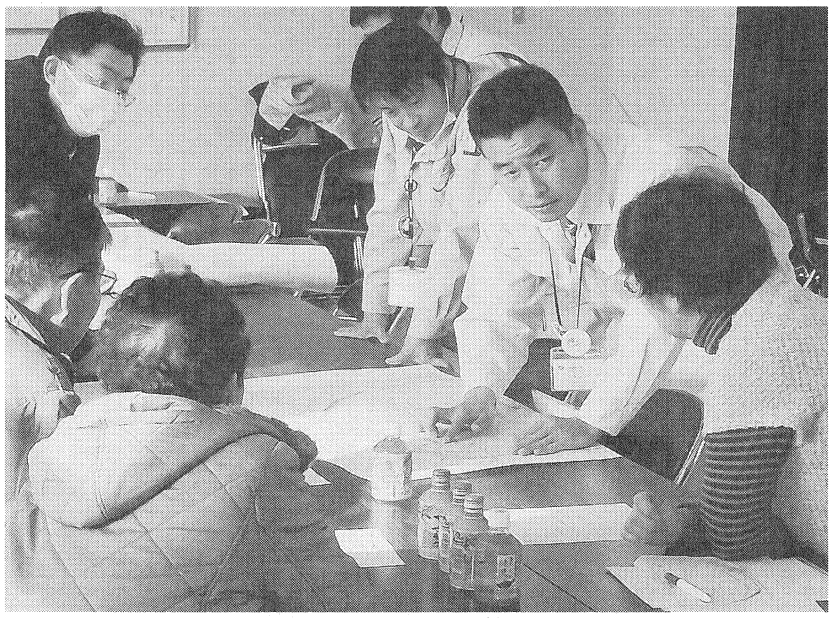
【1ページに本記】

▽現実感

「被災地で仕事をしたからこそ、自分の市の津波想定も現実感を持って受け止められた」。南海トラフ巨大地震の発生時に最大16㍍の津波が想定される宮崎市。避難経路や避難先の指定を進めた市職員の横山慎悟さんは「宮崎が被災した場合に備え、他の自治体の応援を受け入れる態勢を考えたい」と話す。

▽広がる輪

東京都杉並区は少年野球の交流がきっかけで福島県南相馬市と災害協定を結んでいた。しかし震災当初、全く連絡が付かず、2日後、



宮崎市から福島県広野町に派遣され、町民に道路計画を説明する松尾法典さん（右から２人目）＝2012年11月（広野町提供）

東電本社前で「謝れ」「償え」

原発事故原告団がデモ

国や東電に賠償を求めデモ行進する原発事故被害者団体連絡会のメンバーら＝2日、東京都千代田区

東京電力福島第1原発事故で損害を受けたとして、ユプレヒコールを繰り返した。

大きくして立ち向かわなければならない」とあいさつした。

主催者の一人は「東電は賠償を打ち切り、福島県は避難者への住宅無償提供を打ち切るとしている」と抗議した。

連絡会は昨年5月に設立された。主催者によると現在21団体の約2万5千人が参加しており、裁判に関する情報を共有している。

沿岸在来線 44％運転再開

被災4県復旧状況

JR東日本は2日、東日本大震災からの復旧状況と大規模地震対策の進み具合を発表した。津波と東京電

約7割が完了する見込み。

再開した約177㌔の内訳は八戸線、気仙沼線、石巻線、仙石線、常磐線。常磐線のうち不通が続いている区間の大半は今春から来年にかけて再開を予定している。

帰還困難区域を含む常磐線の富岡―浪江については、冨田哲郎社長は2日の

震災復興祈り 八戸でイベント

11日、参加無料

東日本大震災から5年を迎える3月11日、八戸市の住民団体「HUMANBAND（ヒューマンバンド）きずな」（小渡章好代表）

ソ
日発
育に関
と、1
将来
金」に
答した
上っ
や「受
他の項
る割合
教育
る理
「どの
るか
54・5
「収入
自信が
記者会
とし、
保す
し、明
しなか
大船
は、仮
バス高
RT）
とする
合意し
耐震
在来線
脚、駅
来年2
を目指
Mi
パフォ
んにと
を巡っ
演など
した同
さげる
会場
市白銀